

働強化絶對反對、坑内事故の徹底的防止、解雇手當制度の確立、不當解雇絶對反對、最低賃金制及八時間労働制の獲得等を掲げ、殊に本年中激起された炭坑地方の暴力事件は被害者の大部分が本組合員なりし爲、炭坑側の暴力行爲に對し其の都度全力を擧げて闘争を取行したのである、尙亦九月には飯塚市に於て「坑夫の生活を語る」座談會を開催し、炭坑の作業状態、待遇問題、福利施設、取締法規施行の状況等に就き關係者との意見交換を行ひ勞々確實なる組合主義の徹底を期しつつあるので、漸次從來の面目を改め其の遂活動の將來は注目すべきである。

尙九聯加盟團體の有方なるものにセメント労働組合門司支部、石油労働組合西戸崎支部あり、何れも平常待遇改善問題其の他に就き穩健なる運動を継続しつつあり。其の他直方市に於

ける統壹合同労働組合を始め粕屋労働組合、小倉仲仕労働組合、門司印刷労働組合、職夫労働組合（八幡）等あるも本年中の活動に見るべきものがなかつた。

次に地方的單一組合として我邦最大の日鐵従業員組合は遠く廻れば大正八年末組織したる官製労働同志會と翌九年六月結成したる共同研究會の前身日本製鐵労働組合聯合會の二大組合が昭和八年の製鐵官民合同反對運動を直接の機會として同年八月合同改組されたる組合にして、組合會議九州地方協働會の指導的勢力を形成してゐるのである。即ち現在二十九支部組合員數約八千と稱せられ前年に比すれば十支部約二千の増加となり、本年四月より機關紙月刊「鐵火」並にニュース等を發行し、確實なる組合主義運動の宣傳、組合員の教化に努め漸次勢力を擴大しつつありと雖も、其の活動は外部的に